

新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ 今後の発生状況はどうなっていく？

～呼吸器系ウイルスの疫学等に関する調査・研究～

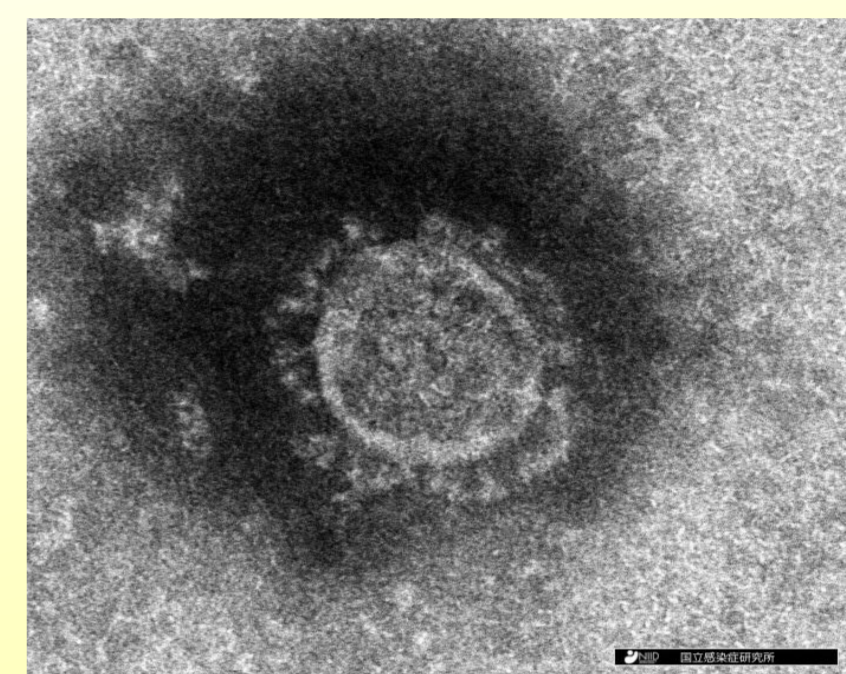


長野県内の新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等のウイルス性呼吸器感染症を中心に、患者発生状況やウイルス株の変異などを継続的に調べ、予防対策につなげます。

なぜ研究が必要なの？

2023年5月8日から、新型コロナウイルス感染症は感染症法上の五類感染症に分類替えされました。しかし、流行の繰り返しや、新たな変異株が出現する恐れがあるなど、注意が必要な感染症のひとつに変わりありません。そのため、流行しているウイルス株の遺伝子系統を確認していくことは重要です。

また、同様の呼吸器感染症が発生した場合に備え、原因となるウイルスを迅速に検査する体制を整備しておくことは、今後、感染症の危機管理対策として必要です。



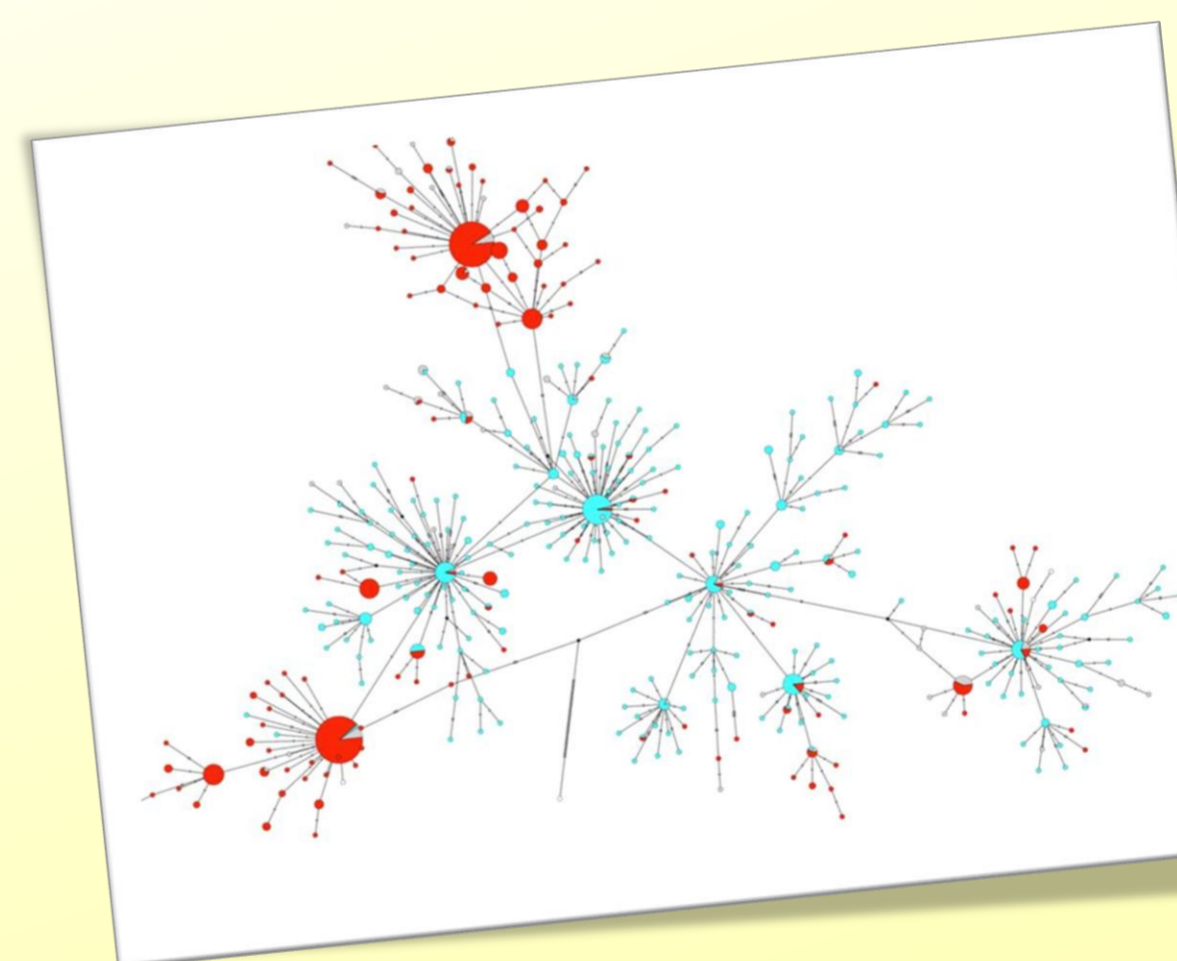
新型コロナウイルスの電子顕微鏡写真
(国立感染症研究所HPより)

どうやって把握するの？

新型コロナウイルスの変異株

流行している新型コロナウイルスの全ゲノム遺伝子配列を調べ、国立感染症研究所病原体ゲノム解析研究センターが開発した解析ソフト（COG-JP）で解析し、新型コロナウイルスの分類（BA.2、BA.5など）を調べます。

また、感染経路などを比較したい場合、ウイルスの全ゲノム遺伝子配列からハプロタイプネットワーク図を作成し、疫学情報との関連性を調べます。



ハプロタイプネットワーク図

その他の呼吸器系ウイルス検査の体制の整備

R Sウイルス、ライノウイルスなど呼吸器感染症の原因となるウイルス検査について、核酸多項目同時検出法により、結果が迅速にわかる方法を検討します。

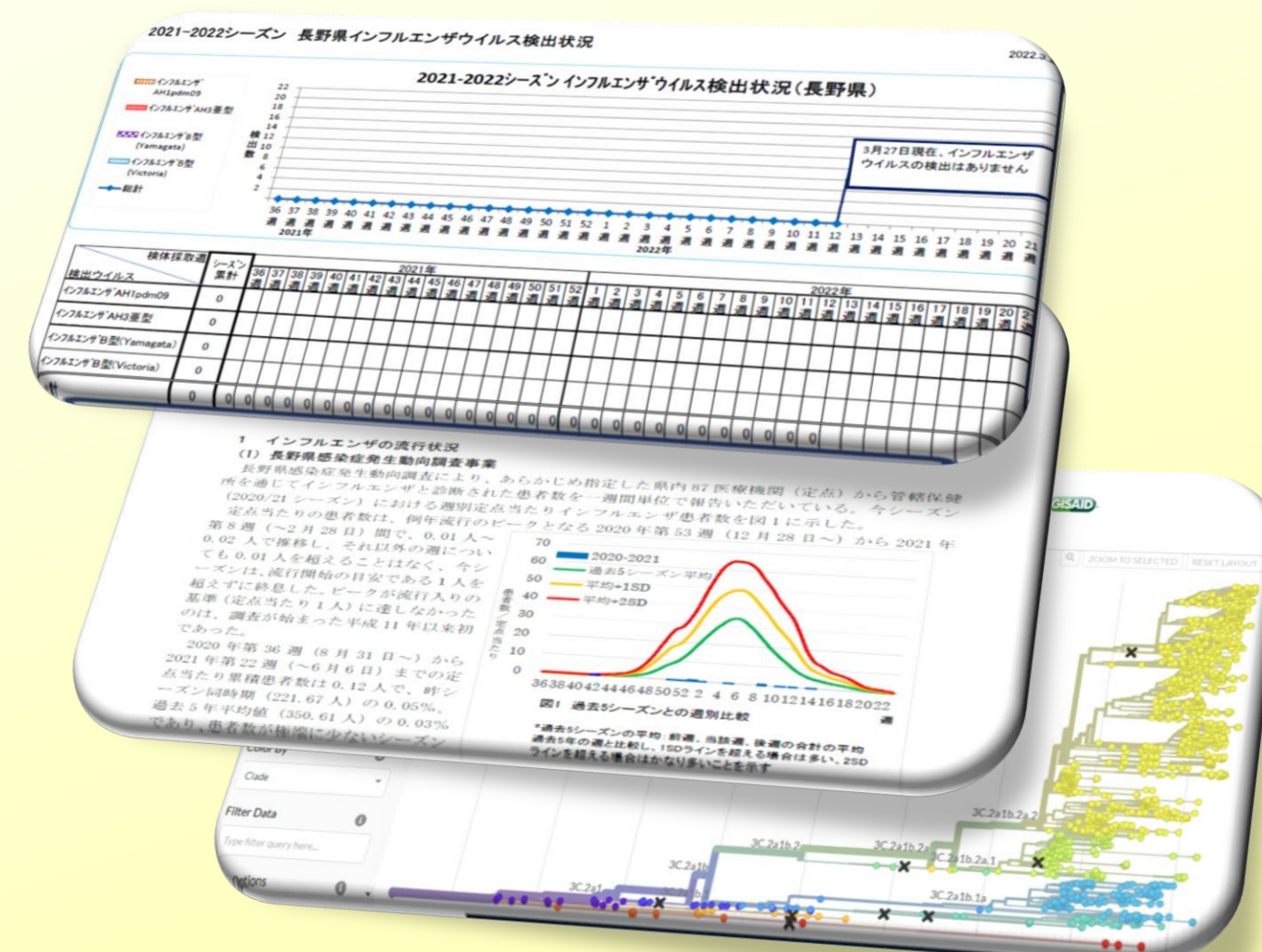
今後の展望

新型コロナウイルス及びインフルエンザの流行状況を監視します

新型コロナウイルス感染症やインフルエンザは、定点当たり届出数の把握や、流行しているウイルスの遺伝子型などを把握し、新たな変異株の出現がないか監視するなど、今後の感染症対策に活かします。

ウイルス性呼吸器感染症の新たな検査法を検討します

発熱、咳など呼吸器症状のある集団感染発生時などに、原因となる病原体（ウイルス）を迅速に検査することが可能となります。



発生状況やウイルス遺伝子型のまとめ